

自分のよさや可能性に気づき、学んだことを自分の生き方に生かす生徒の育成
～「河中エイサー」の取組をとおして～

日上市立河原子中学校

1 はじめに

本校は、「心豊かでたくましく、目標に向かい、自ら学ぶ生徒の育成」を教育目標に、各教育活動に取り組んでいる。総合的な学習の時間では、「チャレンジ！ To Tomorrow ～ 自己の生き方を求めて ～」というテーマで各学年がそれぞれの取組を進めている。1学年では、「職業調べ」、2学年では、「職場体験」、3学年では、「修学旅行・高校について」などを主に課題として取り上げ、生徒一人一人が活動に取り組んでいる。

平成13年度から、主に総合的な学習の時間を活用して「エイサー」に取り組んでいる。この踊りを「河中エイサー」として、毎年1年生から3年生までが学年の段階に応じて取り組んでいる。郷土の歴史や文化を学び、郷土愛を育て、生きる実感体験として学習している。18年目を迎える今年度も、多くの地域の行事等でこの「河中エイサー」を披露させていただいている。

エイサーは、沖縄県と鹿児島県奄美群島において、お盆の時期に現世に戻ってくる祖先の霊を送迎するため、若者たちが歌と囃子に合わせ踊りながら地区の道を練り歩く伝統芸能である。また、かつては祝儀を集めて集落や青年会の活動資金とする機能も重視され、その金でため池を設けた例もある。地域によってはヤイサー、エンサー、七月舞（しちぐわちもーい）、念仏廻り（にんぶちまーい）とも呼ばれる。現在では、各市町村に多くの青年会が存在している。上記の地域だけでなく、東京や大阪などでエイサーを中心としたイベントが毎年行われるなど、様々なところで親しまれている。

エイサーの踊りは、主に太鼓エイサーと手踊りエイサーの2つに分かれる。太鼓エイサーの主体は太鼓と踊りで、地謡の演奏に合わせて太鼓を叩きながら、身体をひねる、しゃがむ、跳ぶ、回転するといった動きをする。何十人もの太鼓踊りの統一感や全体の躍動といった勇壮さが、エイサーの大きな魅力である。一方、手踊りエイサーは琉球舞踊を基礎とした優美な動きが特徴である。三線が伴奏する場合は、歌に合わせて、踊りの輪の回転方向が変わる。太鼓伴奏の場合は、ゆるいテンポと速いテンポの曲を交互に歌い、踊る。

この河原子の地域で「エイサー」を学び、地域の行事を通して演舞を披露することで、練習に取り組んだ苦労や練習の成果を出し切れたという達成感・成就感を味わわせたい。また、地域の行事に参加したり、地域の方々に見てもらったりすることで、自分たちの住んでいる地域の良さや地域活性へ貢献していることに気づかせる場面としたい。



＜沖縄のエイサー＞

2 河中エイサーについて

(1) 役割

<大太鼓>

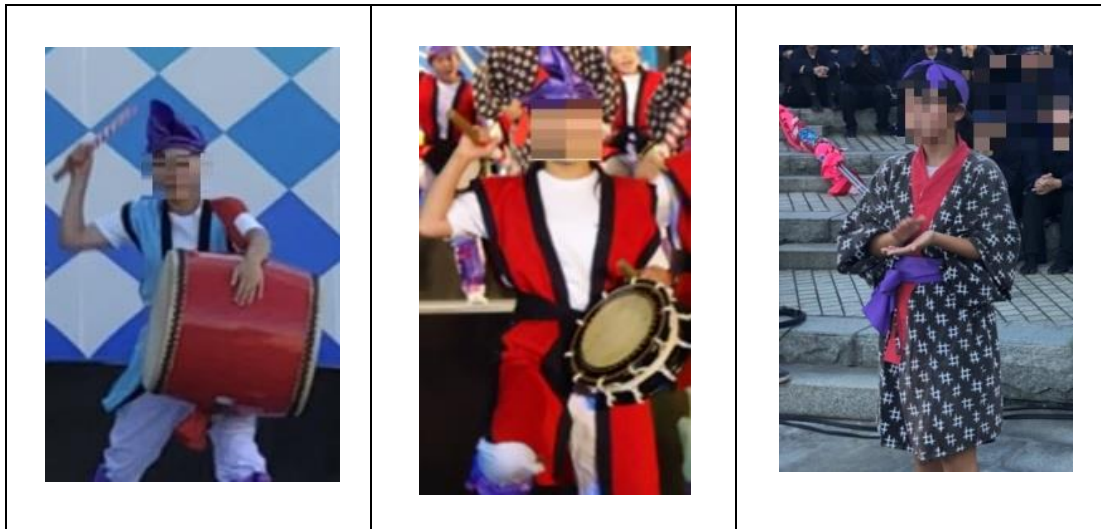
直径およそ50cmの太鼓を持ち、歌に合わせてバチで太鼓を叩きながら踊る。

<締太鼓>

直径およそ30cmの太鼓をバチで叩きながら踊る。ほとんどの生徒がこの役を担う。

<手踊り>

女子数人で構成される。道具は使わずに踊る。



(2) 衣装

役割によって違った衣装を着用する。

①太鼓打ち

- ア サージ頭に巻く長い布。
- イ 襦袢（じゅばん） . . . 丈の短い白い上着。
- ウ 打掛（うちかけ） . . . エイサーの代表的な衣装。袖がなく、襦袢の上に肩から掛けて着用する。
- エ 脚袢（きゃはん） . . . 脛の部分に巻く布。ズボンの裾が障害物にからまったりしないよう裾を押さえ、脛を保護する。
- オ ウービ打掛を腰で留める帯のこと。

②手踊り

- ア 鉢巻き手踊りが頭に巻くリボン。
- イ クンジー紺色のゆかた。手踊りが着る紺地の紵。

(3) 曲

本来は、三線や指笛も使われるが、「河中エイサー」ではこれらの2つはCDを用いて行う。生徒の大太鼓や締太鼓を主として演奏する。構成される曲は以下の通り。

- ①南嶽節（なんだきぶし）：恋人が愛しい人を想う，恋愛の歌。最初の隊列形成の際に使われる。
- ②仲順流り（ちゅんじゅんながり）：子供が死んだ母を探し求める話で、古い「継母念仏」が簡略化されたもの。
- ③唐船ドーイ（とうしんどーい）：琉球民謡の代表的なカチャーシー（三線の速弾き）の曲。エイサーのトリの定番で祝い歌の一つである。

3 河中エイサーの取組

(1) 各学年の取組

各学年で段階に応じた学習を進めている。実際に「河中エイサー」を踊るのは2，3年生だが，1年生から郷土の歴史や文化を学ぶことで，「河中エイサー」の伝統を守り，河中生としての誇りを培う環境づくりにも努めている。



体育祭（2年）

ひたち秋祭り（2年）

サンドアートフェスティバル（3年）

① 1学年の取り組み

時期	主な活動	育つ意識
1学期		・ 沖縄やエイサーを知る ・ エイサーへの意欲向上 地域を知る 沖縄・河中の伝統を知る
2学期	・ 体育祭でエイサーを知る（9月）	
3学期	・ エイサーの歴史を学ぶ	

② 2 学年の取り組み

時期	主な活動	育つ意識
1 学期	・ 3 年生から引き継ぎ ・ エイサーの練習	「荒馬座」による指導 ・ 踊りを喜んでもらえる達成感・自己有用感 ・ 仲間と踊りきる達成感 ・ 多くの観客の前でやり切る達成感・自己存在感 伝統を受け継ぐ 地域のよさに気づく
2 学期	・ 体育祭で披露（9 月） ・ 敬老会で披露（9 月） ・ ひたち秋祭りで披露（10 月）	
3 学期		

③ 3 学年の取り組み

1 学期	・ 2 年生に引き継ぎ（1 学期） ・ エイサーの練習（1 学期）	・ 2 年生に伝える活動の中で伝統をつなぐ役割を担う自己有用感・存在感 ・ 発表を通じての達成感 ・ 地域の中での有用感・存在感 ・ 地域を担う人材としての意識 伝統をつなぐ 地域のよさに気づく
2 学期	・ 塙山さんさん祭りで披露（7 月） ・ 河原子花火大会で披露（8 月） ・ ひたち秋祭りパレード参加（10 月）	
3 学期		

4 成果と課題

○一生懸命練習に取り組み、様々な舞台で発表することによって、達成感や成就感を得ることができる。

○祭りに出演することが地域への貢献につながり、地域の方々との交流によって地域への所属感を味わうことができる。

△発表する機会が同時期に集中することから、生徒や教員の負担が大きい。